

## 令和元年度に建設工事で発生した事件事例（転倒による事故）

### 【事故概要】

加熱したアスファルト系防水材料を容器に入れ運搬する作業において、被災者は溶融釜から容器に防水材料を移し、容器を持ち上げ振り返ったところ、プライマーが付着した養生シートを踏みバランスを崩し、あわてて容器を下に置いたため防水材料が飛散し腕、顔にかかり、そのはずみで被災者が転倒し、飛散した溶剤の上に乗ったため火傷を負った。

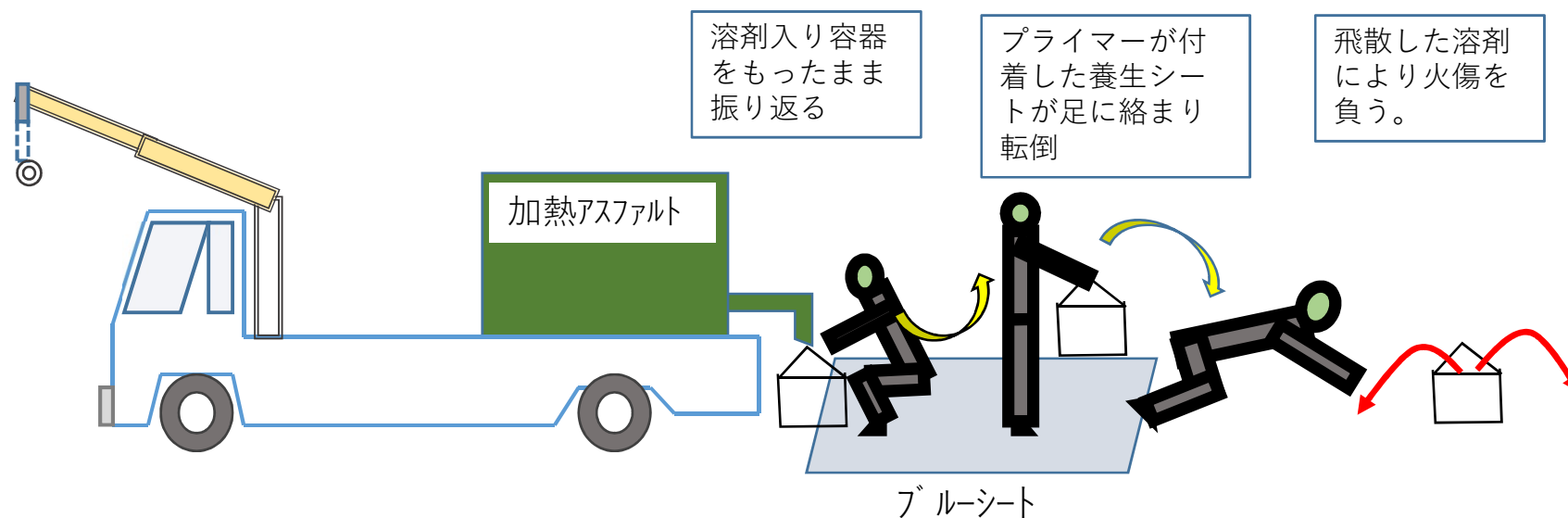
### 【事故原因】

- ・養生シートにプライマーが付着していたが、これを放置していた。
- ・作業手順書に定められた保護具を装着していなかった。
- ・溶剤の入った容器を持ち上げ体勢を変える際、バランスを崩す可能性のある体勢で作業をしていた。

### 【改善対策】

- ・養生シートの上にコンパネを敷いて作業床とする。
- ・また、プライマーが付着した場合は清掃等対策を施す。
- ・作業手順書に記載の保護具装着を徹底する。
- ・運搬作業の際は一連の動作で容器の持ち替え、体勢を変えることをしないよう、作業順序を定める。

現場状況図



【分類】 橋梁工、橋梁補修

【被害状況】 右掌、右腕、顔に火傷（3週間休業）

# 令和2年度に建設工事で発生した事故事例（墜落・転落事故）

## 【事故概要】

橋梁補修工事にて、チェンブロック8基で落橋防止装置を取り外す作業を行っていたところ、突然、落橋防止装置が足場上に落下したため、足場が損壊し、作業員が下の河川へ墜落した。

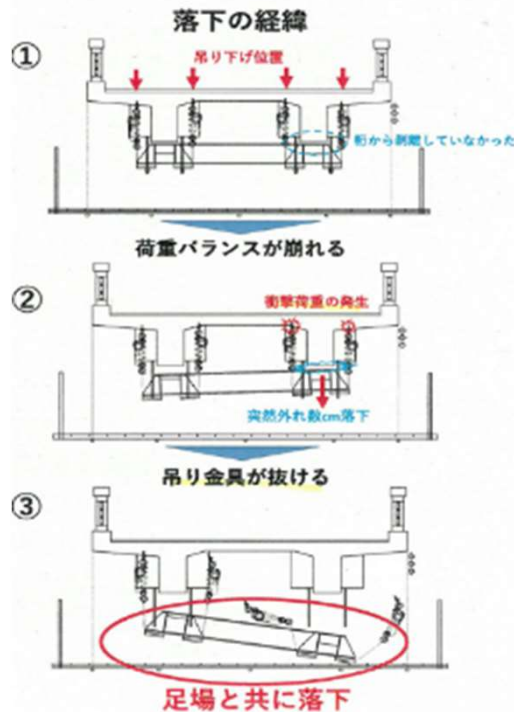
## 【事故原因】

- ・変位制限装置と橋桁との剥離を確認していなかった。  
（一部付着していた）
- ・チェーンに掛かる荷重を均一に維持しながら装置を吊降ろすことができず、一つの吊り金具に衝撃力が作用する状態となったため。
- ・現場にいた作業員全員が取降ろしの作業に直接関わっており、作業全体を常時確認できる体制をとっていなかった。

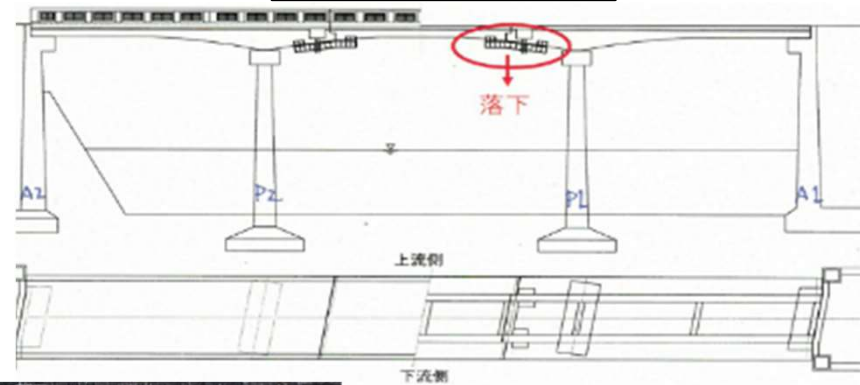
## 【改善対策】

- ・作業全体が常に確認できる作業指揮者を配置し、指揮者の合図で全てのチェーンを同時に降ろすようにする。指示は作業員全員が共有できる体制を確保しておく。また、一度の合図で降ろす高さを作業前に決めておき、チェーンに目盛を印しておく。なお、吊り金具の抜け落ち対策として、床版に直接打ち込むのではなく、床版上に敷設した鉄板に取付ける。
- ・主任技術者及び作業員が、作業の支障となるものがないかのチェックを作業前に行う。
- ・作業内容に関わるさらなる安全教育を実施し、作業の危険性を作業員全員で確認・共有する。

落下状況図



状況図及び写真



損壊した吊り足場



落下した変位制限装置

【分類】 橋梁工 橋梁補修

【被害状況】 業者人身 3人 骨折、肺挫傷等重傷（3ヶ月の安静加療）

# 令和2年度に建設工事で発生した事故事例 (交通事故)

## 【事故概要】

歩道橋補修工事現場にて、路肩に建築限界を侵して設置された足場端部に、トラックの荷台側面部上端が接触しこれを損傷させた。

## 【事故原因】

- ・ 高さ制限を4.2mにて実施することとしていたが、その適用は車道部のみで路肩には適用されないと誤った認識であったため、路肩に足場の張出を行った。
- ・ 上記の状況にもかかわらず、路肩規制も実施していなかった。

## 【改善対策】

- ・ 事故直後、路肩部に視認性を高めるため、カラーコーン、赤色灯、チューブライトを設置し再発防止に努めた。
- ・ 翌日、路肩内に設置していた足場及び足場張出部を撤去した。
- ・ 足場点検時のチェックリストに高さ制限（建築限界）に関する新たな項目を設け、工事開始前に現場確認を行うとともに、毎日朝礼時において下請け業者を含め、現場内の周知徹底を図る。
- ・ やむを得ず足場を路肩に張り出す場合は、事前に路肩規制の申請を行う。

## 事故状況平面図



## 事故発生時の足場状況写真



【分類】 橋梁工 (人道橋) 橋梁  
補修

【被害状況】 公衆災害 一般車両一部損傷 1台

3

# 令和3年度に建設工事で発生した事故事例（飛来物、落下物事故）

## 【事故概要】

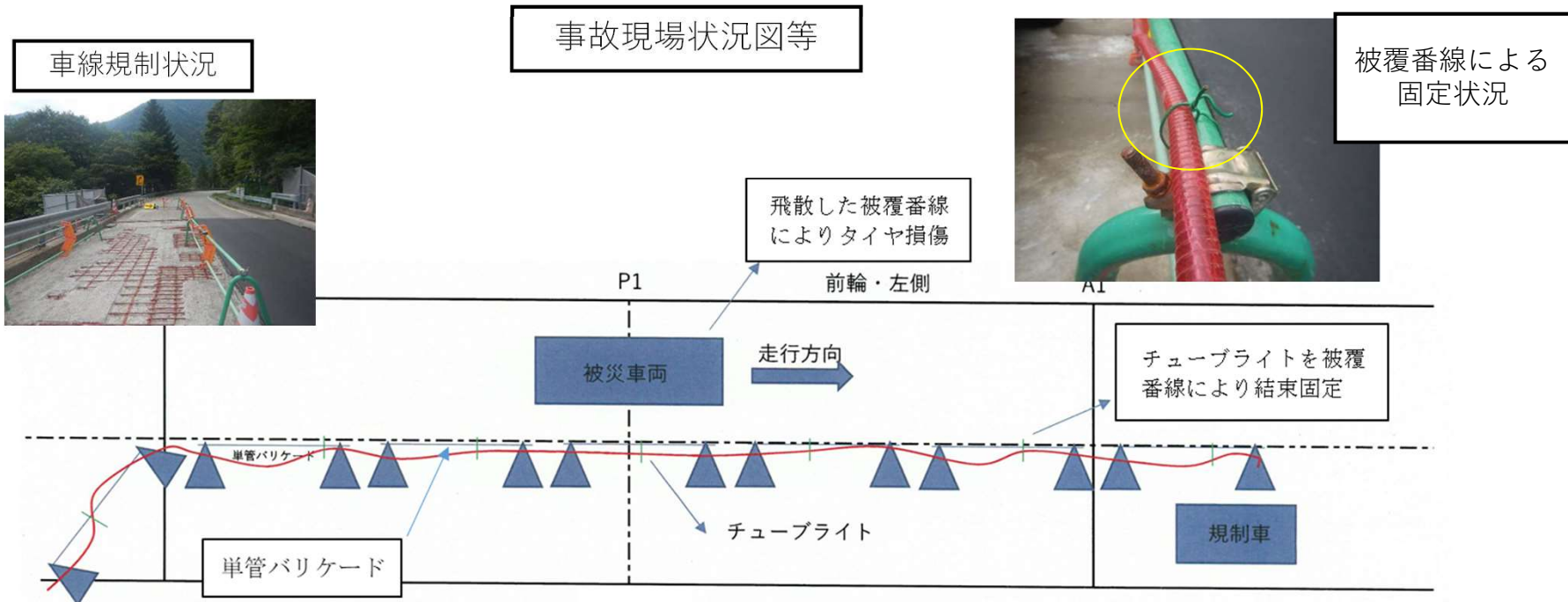
片側通行規制を伴う橋梁床版上面の補修工事現場において、夜間の規制体制に切り替えを行ったところ、当該箇所を通過した一般車両のタイヤに、被覆番線が刺さりパンクした。

## 【事故原因】

- ・規制切替作業時に、作業区域反対側の走行車線への飛散物、落下物による事故の危険性について意識が低かった。
- ・このため、路面の点検を行ったが、被覆番線が走行車線に飛散していたことに気づくことができなかった。

## 【改善対策】

- ・複数人による路面上の落下物等の目視確認を行い、落下物等有無の点検を徹底する。
- ・チューブライトの固定には紐・テープを使用することとし、落下した場合に走行車両に与える損害を低減する。
- ・事故対策会議および安全教育の実施し、情報の共有を図る。



【分類】 橋梁工、橋梁補修

【被害状況】 公衆災害 一般車両1台 パンク